



〈鶴ヶ島市立藤中学校だより 第9号〉

学校教育目標

ともに学び、未来を拓くたくましい生徒の育成

藤中だより

保護者・地域に信頼される学校を目指して

〈目指す生徒像〉

- よく考え工夫して学ぶ生徒(知)
- 人と自分を大切にする生徒(徳)
- 心と体を粘り強く鍛える生徒(体)

令和7年12月1日 校長 竹田 聡

＜年末を迎えて＞

日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力いただき感謝申し上げます。また、関東・全国駅伝大会出場に際し、たくさんの寄付をありがとうございました。応援生徒の交通費に有効活用いたします。

11月下旬からインフルエンザの広がりが見られました。登校前の健康観察を必ずお願いします。

12月は1年のまとめと新年の準備をする期間です。学年も残り3ヶ月、よい状況で進級・進学ができるように、現状を確認してください。具体的には、よいことは続け、悪い点は改善することです。目標や方法が適切だったのか、お子さんと一緒に考えてください。よろしくお願いします。

＜流行と不易(不変)について＞

11月4日(火)の学校朝会で、私は「不易と流行」について話をしました。

今日はまず、「流行」について話をします。

「流行」とは、「はやること。その時代の人の好み。風潮。」です。ですから、時代と共に変化していることと言えます。学校は学びの場ですから、学習面で変化してきたことを考えて見ましょう。

調べる学習ツールは大きく変化しました。昔は、分厚い紙の辞書や辞典を持ち歩いていました。それらが、電子辞書に替わりとても便利になりました。今は、タブレットPCを使いインターネットで調べられるようになりました。計算のツールも変わりました。私が小学生の時は、そろばんの授業がありました。電卓の普及とともにそろばんを使う機会が減り、今は、タブレットPCやスマートフォンのアプリで計算ができます。運動や演奏などの実技に関する情報も、昔は連続写真から動きを真似しましたが、今はYouTubeなどのネットの動画を参考にすることができます。ネットの動画も分かりやすくなっています。ただ、学習のツールは変わっても、みなさんの学力を測るテストや高校入試は、あまり変化していません。今も昔も問題を読み、答えを解答用紙に記入しています。学び方の変化に、評価方法が追いついていないようです。

「流行」に対して「不易」という言葉があります。聞き慣れない言葉だと思いますが、「不易」とは、「変わらないこと、不変」という意味です。テストが変わらない限り、「読み・書き・計算」を速く正確にすることは、「不易」の勉強と言えます。

将来、みなさんが社会で活躍するときに、必要な勉強は何でしょうか？AIもさらに発達するでしょう。AIを研究している東大教授は、「AIの知性は予測」と話していました。もしかすると、そこにヒントがあるかもしれません。興味のある人は「予測」や「予習」に挑戦してください。

「読み・書き・計算」を速くするために、家庭学習で繰り返すことが大切です。

＜よい三者面談にするために＞

先日、「面談」についての研修を受けました。三者面談にも役立つことがありましたので、参考にしてください。

1 面談とは

「面談」は、「対話の場」で、**お互いの理解を深める場**です。どちらか一方的に意見や考えを発言するのは、「面談」ではありません。そして、「対話」は、自分の思いを伝え、相手の考えを聴くことです。お子さん・保護者・担任の考えを聴き合える時間にしてください。

2 1メッセージで話す

主語は「私が“I”」で話をします。その際、「～べき」と断定的にならずに、相談や提案の形で、建設的な意見交換ができるように話し合うと、可能性が広がります。

三者面談は、その子に合った方法を話し合えるように、主語が「みんなが～」や「普通は～」とならないように気を付けてください。

3 持ち時間を意識する

三者面談は3人で行いますので、1人の時間は、**面談時間を3等分した時間**が目安になります。参加者全員が同じくらい話せるように心がけてください。

4 子どもに寄り添う

「寄り添う」とは要求に応えることではなく、**相手の気持ちを受け止める**ことです。可能性がゼロではない限り、子どもの気持ちを受け止め、「できない」と否定せず、なぜそう思っているのかを聞いて、よい方法を共に考えてください。

5 優しい聞き方を用意する

「こんなことを聞いたら」と不安に思う方は、**生成AIの活用**をお勧めします。ネットで「相手を不快にしない○○について質問を作って」などと入力し、検討を重ねると、優しい言い回しが見つかり、不安の軽減につながります。

<生徒の活躍>

身体障害者福祉のための埼玉県児童生徒美術展覧会
入選 15名

アンサンブルコンテスト中学生地区大会

管打楽器6重奏 銅賞

管打楽器8重奏 銀賞

新人体育大会県大会（個人は入賞のみ）

ソフトボール部（若宮・桜合同） ベスト8

女子ソフトテニス部 2回戦惜敗

剣道男子団体 第5位

女子バレーボール 初戦惜敗

陸上競技部 男子総合3位 女子総合2位

男子 3000m 第1位

800m 第1位

女子 800m 第6位

1500m 第5位

100mH 第4位

走高飛 第5位

4×100mR 第8位

埼玉県駅伝競走大会

男子2位 56分57秒（関東大会出場）

区間最高記録 第6区

女子1位 41分53秒（全国・関東大会出場）

区間最高記録 第5区

<関東駅伝壮行会>

11月26日（水）の朝、関東中学校駅伝競走大会（11月30日に群馬県渋川市で開催）に出場の男女駅伝部を激励するため、体育祭の応援団長が中心となり、壮行会を行いました。

駅伝部男女の主将からお礼と決意の言葉、駅伝部監督の言葉の後、団長の音頭で「フレーフレー藤中、ガンバレガンバレ藤中、ファイトファイト藤中、根性根性藤中、アレーアレー藤中」とエールを贈りました。



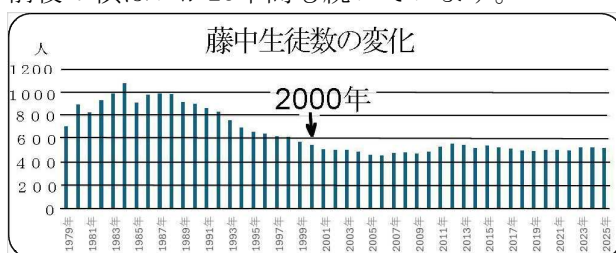
<藤中の開校記念日>

11月15日は、本校の開校記念日です。1979年（昭和54年）4月1日に、鶴ヶ島町（当時）で2番目の中学校として開校されました。

同じ年の出来事として、東武東上線若葉駅開業、テレビ埼玉開局、「ドラえもん」テレビ放送開始などがあり、お菓子の「パイの実」「うまい棒」の販売が開始された年でした。

開校記念日の意義をMicrosoftのcopilotに質問したところ、「開校記念日の意義は、学校の歴史や理念を振り返り、地域や生徒・教職員がその歩みを共有し、未来への展望を確認するための特別な日です。」と返ってきました。

そこで歴史を振り返るために、藤中の生徒数の変化を調べてみました。1980年代は、900人以上の生徒が在籍し、2000年を過ぎた頃から500人前後の横ばいが25年間も続いています。



卒業生に藤中のよいところを聞く機会があり、「行事が盛んなことです。」と答えてくれました。学校行事は、生徒数・学級数の増減により、変更せざるを得ないことがあります。藤中の縦割りの体育祭、全校生徒で盛り上がる文化祭、レベルの高い合唱祭は、生徒数が25年間ほぼ変わらないことも要因の一つだと私は思います。

令和8年度の中学1年から1学級の定員が35人となることもあり、しばらくの間は5学級の新入生が続く見込みです。他校に誇れる行事が続くことを願っています。

<3年生との面接練習を通して>

10月中旬から1ヶ月をかけて、3年生と校長室で面接練習をしました。私と1対1で行いますので、多くの生徒が緊張した面持ちで臨んでいました。特に緊張した中で、敬語で話し続けることに、多くの生徒が苦労していました。

練習で大切なことは、自分の課題や限界を知ることです。どのくらいの文章量まで正しく話せるのかを知り、無理なく敬語を使える文章量で話すことがポイントです。例えるなら、全力で走れる距離の限界が人それぞれ違うようなものです。また、考えながら話すと、語尾が伸びたり強くなったりする傾向にあります。テレビのインタビューでもよく見られる光景です。

敬語の練習は、ていねいに話す時間を設けることです。まず、「です・ます」と使うことが練習になります。授業中の発表はそのよい例です。

ご家庭では、お願い事は「です・ます」を使わせるようにしてはいかがでしょうか。